

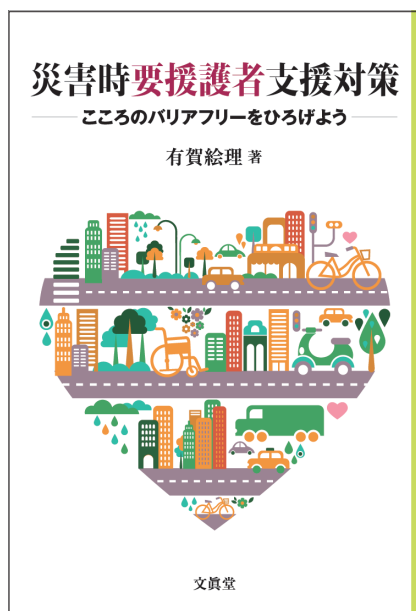
バリアフリー構築はまちづくりの必須

災害時要援護者支援対策

——こころのバリアフリーをひろげよう——

有賀絵理 著

四六判 / 128 頁 / 定価：本体 1,200 円 + 税 / ISBN978-4-8309-4812-1



災害時要援護者の避難は容易なものではない。昨今、各自治体では防災計画が見直され、災害時要援護者名簿や個別計画等も実施されている。しかしながら、まだまだ本格化されていない。実効力のある災害マニュアルや災害時要援護者事前調査の必要性と、障がい当事者である筆者の体験談から『こころのバリアフリー』の重要さが理解できる書である。

●主要目次

- 1 災害時要援護者とは
 - 2 忘れないで！バリアフリー！！
 - 3 社会のなかのバリアとバリアフリー
 - 4 障がい者とは
 - 5 災害時の災害時要援護者の実態
 - 6 全国（各都道府県）の災害時要援護者前調査書の現状
 - 7 災害時要援護者事前調査書？それとも台帳？
 - 8 今後の災害に向けて
- 付録 (1) 災害時要援護者事前調査書
(2) インタビュー：～災害時要援護者について語る～



文真堂

〒162-0041 東京都早稲田鶴巻町 533 番地
TEL：03-3202-8480 / FAX：03-3203-2638

<http://www.bunshin-do.co.jp/>

●本書を推薦します

2020年のパラリンピック関連施設は、ハートビル法（高齢者・身障者も円滑に利用できる建築物の促進）で整備されるでしょうが、その運営には「こころのバリアフリー」が不可欠です。差別社会克服の具体的な第一歩として、有賀絵理研究者の本書を推薦いたします。

通産省工業技術院地質調査所元首席研究官
茨城大学元教授

大嶋 和雄

茨城大地域総研で御一緒した有賀絵理氏が時宣にかなった好著をまとめられました。今回の大災害による死亡・行方不明の障がい者は、そうでない住民の約2倍に達した現実を踏まえ要援護者の避難対策が優先課題であり、さらに復興過程での防災計画の見直し作業も要援護者への配慮が大切だと。自治体・社協・NPOの皆さんに是非！

茨城大学名誉教授
NPO法人とらい 代表
公益社団法人 茨城県地方自治研究センター 副理事長

帯刀 治

著者は、東日本大震災で自ら災害に遭遇し、震災後の当会の支援活動にも関わり、災害時の地域の障がい者の状況を調査してこられた。近くに原発がある中、災害時の避難誘導や訓練に関して共に活動してきた仲間でもある。次に備えて日頃からできることは何か、この本をもとに地域の繋がりと安心をつくっていききたい。そして多くの方に推薦したい。

認定NPO法人 茨城NPOセンター・コモンズ 常務理事兼事務局長

横田 能洋

FAX 御注文票

御送付先氏名	御送付先・連絡先	冊数

文真堂営業部

TEL : 03-3202-8480 / FAX : 03-3203-2638 / E-Mail : eigyou@bunshin-do.co.jp